

# 避難所開設(ファースト)キット

～避難所に避難された方が協力して  
初動対応をするための手順書～



多摩区役所危機管理担当 鈴木 貴大

## 1 避難所開設(ファースト)キットとは

### (1) はじめに

大地震が起こった際に職員や学校関係者がすぐ避難所に駆けつけることは難しく、その地域に住む方たちの協力が不可欠である。その中で、最初に駆け付けた方たちがすぐに目につき、その場で見るだけで避難所の開設が可能となる手順書を作成したいと考えた。

平成30(2018)年8月発行の、地震対応に関して詳しく掲載された「川崎市避難所運営マニュアル」(図1)があるが、避難所運営会議の委員の中には「私たちは高齢でこんなに文字を読めない・理解できない・覚えられない」という声があった。



図1 川崎市避難所運営マニュアル  
～地震災害対策編～

本マニュアルの内容については、平常時から訓練や研修等を通じて把握していただくよう努めている。ただし、災害時のような突然の事態のときに読み込むのは、地域の方にとっては難しいとの声を受けて、災害時に混乱なく、安全に、集まった方だけで



図2 避難所開設キット本体

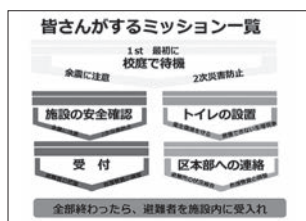


図3 ミッション一覧(5つの項目)

対応できる、最初に必要なことだけを簡潔にまとめた手順書(キット)が必要だと考えた。

### (2) 避難所開設(ファースト)キットの内容

避難所開設(ファースト)キット(以下「避難所開設キット」という。)は防災備蓄倉庫に配置してあり、避難所開設キット本体(図2)の説明書を見れば、しなければならないことがすぐに分かるようになっている。「校庭で待機」、「施設の安全確認」、「受付の設置」、「トイレの設置」、「区本部への連絡」の5つの項目である(図3)。この5つの項目を避難者が協力して、1つずつ対応していく仕組みとした。地域の方からは「災害時の不安な中、防災備蓄倉庫を開けた際にこれが目に入れば落ち着ける」と言っていた。

ここでは、字数の関係で避難所開設キットの5つのミッションのうち「校庭で待機」を紹介する。

避難所開設キットを開くと5つの項目ごとのケースが入っており(図4)、まず「校庭で待機」のケースを開けると説明書が入っている(図5)。校庭での待機場所について、設置にあたり問題はないか、周囲に危険物はないか等の項目を確認する(図6)。それをもとに待機場所を決めたら、避難誘導に必要な道具を備蓄倉庫から取り出し、用意する。そして、避難者の誘導を行い、最後に避難者に情報を伝える(図7)。このような一連の流れが手順書に沿って



図4 避難所開設キットの中身



図5 ケース内に入っている説明書

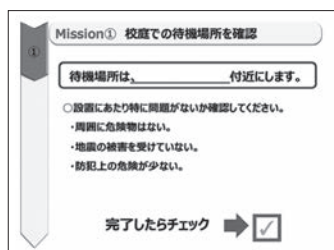


図6 待機場所の確認項目



図7 「校庭で待機」の一連の流れ

行えるようになっている。

他の「施設の安全確認」、「受付の設置」、「トイレの設置」、「区本部への連絡」に関しても、同様に流れに沿って対応していけるようになっている。

## 2 訓練での活用

現在、避難所開設キットは多摩区の指定避難所となっている小学校・中学校21カ所に配置したばかりで、知っている地域の方は限られている。そこで、1人でも多くの方の目に触れられるように、地域の防災訓練の中で活用していただいている(図8)。



図8 避難所開設キットを使用しての防災訓練

## 3 災害時における使用

避難所開設キットは、主に地震のときを想定して作成したものであるが、昨年度の令和元年東日本台風時には多摩区において8,000名を超える方が避難された。例えば、中野島小学校では受付名簿に記載された方で約1,500名、実際はそれ以上の方が避難された。その際に避難所開設キットの受付の設置を活用した。区の際に避難所開設キットの受付の設置を活用した。区の職員や学校の先生に加えて、地域の協力を得ながら、

受付を複数設置して避難所を運営することができた。

## 4 川崎市の代表として全国へ!!

また、令和元年度の第11回チャレンジ☆かわさき選手権に「TAMA BO-SAI」というチーム名で出場し、「避難所開設キット」を含めた多摩区の改善業務についてのプレゼンテーションを行った。発表を終えて福田紀彦市長から「これは素晴らしい!ぜひ横展開をしてほしい」と言っていただいた。

さらに、川崎市の代表として兵庫県丹波篠山市で開催された第14回全国都市改善改革実践事例発表会でもプレゼンテーションをする機会を得た(図9)。この全国都市改善改革実践事例発表会では26の自治体が出場し、それぞれの改善運動の発表を行った。

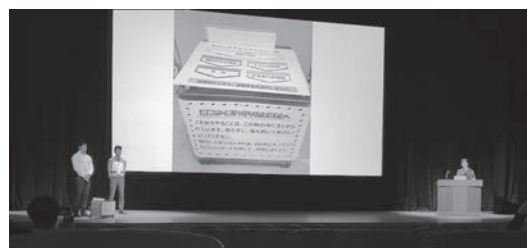


図9 全国都市改善改革実践事例発表時の様子

発表後、審査委員の講評として、「詳細なマニュアルが避難所開設キットという形でわかりやすくなっているのは非常に良いことだ」というコメントをいただいた。また、他の自治体からは「避難所開設キットのデータ一式を送ってほしい」「その発想は思いつかなかった」といった声をいただき、避難所開設キットの作成に取り組めたことは非常に良い経験になった。

## 5 おわりに

震災発災直後は、危険・混乱・不安がいっぱいである。避難所に行っても「誰かがやってくれるだろう」「私は何も知らない」など現実から逃げたくなるだろう。ただ、その誰しものが不安な状況だからこそ共助が重要になってくる。1人が皆のために、皆が1人のために行動していただきたい。

その中で、地域の方や避難者、職員、学校関係者が避難所開設キットを見ながら落ち着いて一緒に対応することができるようになってもらいたいと思う。

最後に、多摩区だけでなく他の区でも導入できるよう広く勧めていきたい。